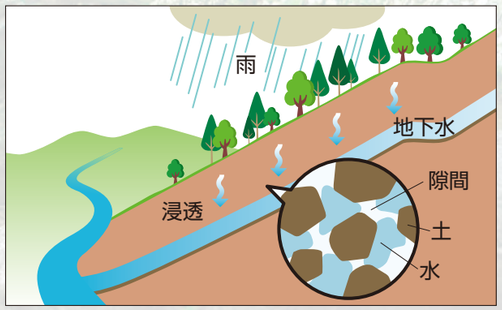
2　水道水源林の働き

水源かん養機能
―水を蓄える―

健康な森では、落ち葉などを分解する微生物等の土壌生物の活動により、スポンジのように小さな隙間がたくさん空いた、保水力の高い土壌がつくられています。

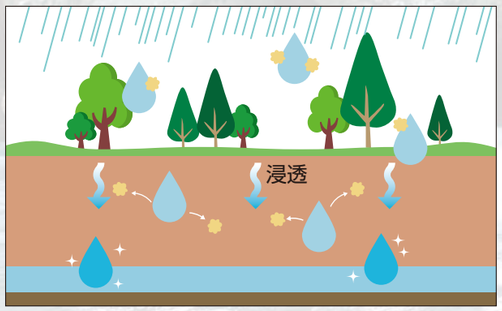
森に降った雨は、このふかふかの土壌を通って地中深くにしみ込み、蓄えられ、地下水となってゆっくり川へと流れ出ていきます。

森はこのような働きによって、川に流れる水の量を調整して洪水や渇水を緩和するため、「緑のダム」とも呼ばれています。



水質浄化機能
―水をきれいにする―

良好な土壌が形成された健康な森では、雨が地中にゆっくりと浸透する間に、空気中で付着したちりなどの汚れが取り除かれて、きれいな水になります。

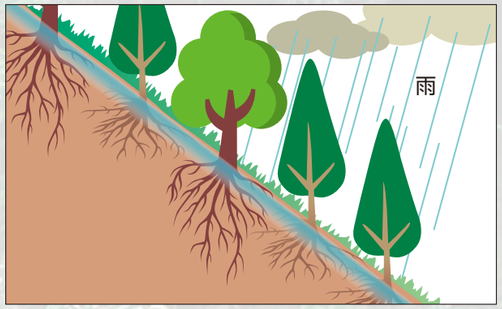


土砂流出防止機能
―土の流出を防ぐ―

健康な森では、木の枝葉や草、落ち葉などがクッションの役割を果たし、雨が直接地面を打ちつける衝撃から土を守っています。

また、ふかふかの土壌は雨水を素早く浸透させるため、土が雨水とともに流されることを防いでいます。

さらに、樹木の根が地面をしっかりと押さえるため、土砂災害が起きにくくなります。



その他の機能

森の樹木は光合成によって二酸化炭素を吸収して酸素を作り出すため、地球温暖化緩和に大きな役割を果たしています。

また、森は様々な生き物の住みかとなり、生物多様性の保全に貢献しています。

さらに、行楽場所としての保健・レクリエーション機能や木材・食料の生産など、多面的な機能を有しています。

東京で暮らす人々に多摩川上流から きれいな水を安定的にお届けするため、
水道水源林を適切に管理し、これらの機能を 十分に発揮できる森づくりに努めています。